

学園だより



Vol.210

June
2024
弘前大学

- 2 巻頭言
- 4 特集／新学期を迎えて
- 24 海外だより
- 26 研究室紹介
- 28 新任教員紹介
- 32 TOPICS
- 34 編集後記

特集

新学期を迎えて

作品名：『大学構内の散歩』イラスト サイズ 594×841mm
制作：地域共創科学研究科 産業創成科学専攻 1年 赤沼しおり

巻頭言

将来の自分に つながる大学生活を

弘前大学長
福田 眞作

2024年度の新入生の皆さん、ようこそ弘前大学へ！入学式の学長告辞でも述べましたが、晴れて大学生となられた皆さんに対して、改めて心からのお祝いを申し上げます。ご入学、誠におめでとうございます。すでに皆さんの弘大生としての学生生活は始まっていると思います。これまでと全く異なる大学の授業や新しい友人との出会いを経験し、大学生となった自分を実感していることでしょうか。また、皆さんを歓迎する弘前公園の圧巻の桜をご覧になったでしょうか。はっきりとした津軽の四季を感じながら、弘前で学びと暮らしを存分に楽しんでください。

昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類から5類へ変更となり、徐々にコロナ前の日常に戻りつつあります。しかし、世界中で起こる異常気象や多発する自然災害、そしてウクライナやパレスチナ・ガザ地区で続く深刻な紛争、そして円安に関連するエネルギー価格の高騰や物価高など、国内外の不安定な社会情勢に、少なからず皆さんも影響を受けていると思います。全く予

測が困難で不確実な状況が続く中で、大学生としての数年間をどのように過ごして欲しいか、列記したいと思います。

皆さんはこれまで、自宅と学校・塾、時には娯楽施設などの限られた空間、そして家族、友人や先生など限られた人間関係の中で時間を過ごしてきたと思います。初めて親元を離れて一人暮らしを始めた皆さんの多くは、起床、食事、掃除、洗濯、通学、生活費の管理など、すべてにおいて自立が求められます。規則正しい生活のリズムは、大学生活を有意義なものとするための基本です。焦らず、少しずつ慣れていってください。

大学時代は皆さんの長い人生の中では一つの通過点でしかなく、決してゴールではありません。では、皆さんは大学に入学した目的を明確に意識し、通過点の先を思い描けているでしょうか？教職や医療職という明確な進路がみえている学部の皆さんは、生徒や患者との対話のスキルを磨き、スケジュールに従って資格取得に必要な知識の修得を目指すことになり



ます。一方で、今、自分の目標や進路が明確になっていない皆さんにとっては、この4年間で将来の職業選択も含めて極めて重要な時間となります。将来に向けて、学生生活の中で皆さんに是非やって欲しいこと、それは授業だけでなく、課外活動、地域の人々との交流、アルバイトやボランティア活動など、他人との関わりに積極的に参加することです。本学は北海道・東北地区出身の学生が多いという特徴がありますが、全国各地の出身者も多数在籍しています。異なる文化や人生観をもつ人々と積極的に関わることで視野が広がり、皆さんが持っている個性的な才能やポテンシャルに気づく瞬間がきっとあります。そしてちょっとした経験がきっかけとなって、皆さんの将来の夢や目標が明確になっていくものと思います。

様々な企業のアンケート調査を分析すると、皆さんがいずれ歩みを進める社会は、4つの「力」を備えた人材を求めていることがわかります。1つ目は、「自ら課題を発見する力」です。これまでの受け身の姿勢から脱却し、自分自身へ、他者へ、そして目の前の事象に対して、「なぜ」「どうして」「どうすれば」など、たくさんの問いを積み重ねながら物事に積極的に関わっていくことで育んでいってください。2つ目は「困難に挑む力」です。失敗やリスクに負けない胆力を身に付け、社会に出る準備をする舞台が大学です。大学時代の失敗の体験は、成功体験以上に皆さんの人間的成長を加速させるはずです。コロナ禍の3年間を経験した皆さんなら、これからもさまざまな挑戦と失敗・成功を繰り返しながら、新しい未来を創造できる人材へ成長できると信じています。3つ目は、「適応する力」です。科学技術の飛躍的な発展によって、産業構造や社会

環境に大きな変化がもたらされています。目まぐるしい周囲の変化にストレスや不安を感じる機会は確実に増えてきています。事態を冷静に分析し、焦らずに今の自分にできることを着実に行動に移す「適応力」が発揮できれば、やがて課題を解決する糸口はみえてくるはずです。これからの人生、皆さんの前には様々な障害や壁が出現するはずです。自分ひとりで越えられる壁や人の助けや支えによって越えられる壁だけでなく、絶対に越えられそうにない壁が目の前に立ちただかることがあるかも知れません。そのような壁に絶望し、諦めかけた瞬間に私が思い出して勇気を貰っている言葉があります。それは詩人Ralph Waldo Emersonの「Every wall is a door. And you have the key. (すべての壁は扉である。その鍵はあなたの手にある。)」という言葉です。目の前にそびえる巨大な「壁」は、実は開けることができる「扉」であり、その鍵は自分の手でみつけることができるはず!というものです。どうしても解決できないときにはこの言葉を思い出し、諦めずに勇気を振り絞って何度でも立ち向かってください。最後が「グローバル化に対応する力」です。青森県では農産物の海外への輸出量が急増しています。また、四季のまつりや青森の景観、特に雪景色を目当てに多くの外国人観光客が本県を訪れ、本州最北端の青森県が日本の「人気観光スポット」として注目されています。地方にある青森県ですら世界との結びつきが強くなっており、日本全国のあらゆる分野で国際的な視野が求められています。皆さんにも、国際的な視野を身につけるためには何が必要かを考えながら大学生活を過ごして欲しいと思います。海外留学を経験しなくても国際的な視野を身につけることはできます。海外からの留学生との

日々の交流、学寮での留学生との混住生活、オンライン留学講座やHIROSAKIはやぶさカレッジへの参加、弘大SIPS (Staff&student Initiative for Promoting Study abroad) の留学促進活動など、さまざまな人や情報に接するだけでも皆さんのグローバルな感覚が養われていくはずです。

大学の主役は皆さん、つまり学生の皆さんです。弘前大学もまた、学生の皆さんの存在なしには成り立ちません。4年前の学長就任時のインタビューで、「日本一、学生に優しい大学を目指す」と述べました。これは受験生や在校生、そして保護者の皆さんに向けたメッセージであるだけでなく、「大学の主役は学生である」という認識と自覚を教職員に促す意図がありました。本学ゆかりの作家である太宰治が知人に宛てた手紙に、『「優」という字は、「人偏」に「憂う」で成り立っている。つまり、優しさとは他人を思いやる心であり、人の悲しみや寂しさ、苦しみに共感することである。』とあります(本学の副学長であった郡千寿子先生著:コオリ先生のことは探求紀行(弘前大学出版会、2024)より引用)。学生を導く立場にある者として、時にわがままや自己中心的な行動を厳しく正すこともあります。が、学生の皆さんを常に思いやり、寄り添うことを約束いたします。

最後に、晴れて大学生となった今、皆さんが忘れてはならないことがあります。大学進学を決意した皆さんが大学に合格できたのは、もちろん皆さん自身の努力の賜ではありますが、保護者の皆さんや恩師など関係者の方々の援助や支えがあって成し得たものでもあります。大学での学びの機会を与えてくれた関係者への感謝の気持ちを忘れずに、そして学ぶ責任を自覚しながら、これからの大学生活を充実したものとしてください。

新学期を迎えて



人文社会科学部



人文社会科学部長

飯島 裕胤

時代の変化に対応できる専門知識・技能と
課題解決能力の習得を目指して

なんとなく、見定めて

インターネットで初恋の人の名前を検索してみたら、どうなるのでしょうか？ デジタルネイティブの皆さんには「当たり前の、いまさらの話」かもしれません。ともあれ、思い立ったので、やってみました。

出てきますね。東京の医大の先生のようにです。確かに賢い子でした。中学1年、最初のHRで「どんな中学生になりたいか、短文で述べよ」というお題が出され、「子供の素直さと、大人のしっかりした考えをもった中学生」と、その子は記していました。自分の文との差に驚き、憧れたものです。

とはいえ、よくよく調べてみれば、ヒットしたのは同姓同名の別人なんですけどね。でも損した気分かという、その反対。「好き」は、それほどに特別な感情のようです。

と、本欄らしからぬおかしな話をはじめたのには、一応、理由があります。大学教員として日々思うのですが、全国の大学で展開されるキャリア教育（新入生の皆さんもいずれ足を踏み入れます）には、思い詰めるとつらい所があります。この話をしたいのです。

キャリア教育では、「なりたい自分」を問われます。「好きなことは何か」を尋ねられます。でも、私の場合——結構多くの大学生もそうだと思うのですが——自分の好みを問われるのが一番苦手です（もちろん食べ物とか音楽とか、日常的なものなら良いのですが）。好きなことに自信が持てず（どんな境遇でも貫けるとは言い切れず……）、自分が何か、人間性の欠陥があるのでは、と焦ってしまうのです。

もちろん、キャリア教育の設計者の意図は分かります。好きでないことは続かない。好きなことを手掛かりに、なりたい自分像を持とう。そして、それを目指して努力すべきだ、というありがたい親心です。

T.ヴァンダービルドの著書『好き嫌い—行動科学

最大の謎—』（早川書房、文庫版タイトルは『ハマリたがる脳—「好き」の科学—』）は、好みにまつわる常識を哲学的そして科学的に問う、ユニークな本です。その最初のほうに、好みの基本性質として「単純接触効果」が記されています。実験で、アメリカ人（概して甘い飲料を好む？）の被験者たちが、糖分を加えない紅茶が好きになったのですが、その理由は、単純に「繰り返し飲んだから」という研究が紹介されています。人間は、経験し親しんだものから好みが生じる傾向が強いようです。

「好き」は人生において重要なことですが、本当に好きなことは事前には分からず、また「好き」自体の成長もあります。ならば、何が好きかを思い詰めるよりも、なんとなく好きな事柄を経験してみて、可能性を広げていくことの方が生産的な気がします。

ただし、最後に付け加えますが、キャリア教育は適当に流そう、という策はもったいないです。私の大学1年の同級生に、留学しようと地道に努力して、3年で再会したときにはネイティブばりの英語話者になっていた人がいました。また、作家として活躍される本学部卒業生（複数）から伺ったのですが、職業作家になるため、創作文を毎日書く日課を必ず継続したそうです。何か「一つ」。なんとなく見定めて、狙いすませたように大学生の豊かな時間で成長する。皆さんの道は、これかと思います。

ところで、初恋の人の名前をインターネット検索してみて、別人でなく本人がヒットしてしまったら、どうしたら良いのでしょうか？ 私には経験がありません。だから、この辺りは、デジタルネイティブの皆さんに教えを乞いましょう。



学部長あいさつ

教育学部



教育学部長

高瀬 雅弘

教育の見方・あり方を問い直す

消費者から生産者になる

少しばかり緊張した心持ちで迎えた大学生活にも、そろそろ慣れてきたころでしょうか。制服を着ることのない朝、90分という講義の時間、大学では上履きに履き替えることもないのでした。その他にもいろいろと不慣れなことがあったでしょう。でも当初の違和感は徐々に消えていき、多くは慣れた日常の経験になっていきます。この短い違和感に囲まれた日々こそが、大学を感じる時間なのかもしれません。

緊張感から解放されると、今度は様々なことが見えてくるようになります。ときには「こんなはずじゃなかった」「物足りない」といった不満も出てきます。それは当然のことです。なぜなら皆さん（と保証人の方々）は学費というコストをかけて教育というサービスを受ける、消費者の立場にあるといえるからです。

現代社会には様々な消費のことがあふれかえっています。ウェブサイトを見れば押し寄せてくる数々の広告、サービスを利用したり商品を購入する際には評価やカスタマーレビューが有力な指針となっています。かつて「象牙の塔」（どういう意味か調べてみてください）と呼ばれた大学もまた、今や消費者の声を無視して存立することはできません。

しかしここでひとつの厄介な問題が生じます。それは教育と消費社会とのもともとの相性の悪さです。これまであまり意識されることはなかったかもしれませんが、そもそも教育とは権力的な営みなのです。資格を与えられた教師が児童・生徒・学生を指導し評価する、という関係には、一定の権力構造の働きを見て取ることができます。一方で消費社会においては、消費者の価値が大きな意味をもちます。とりわけ現代社会においては、消費者＝お客様優位の傾向が強まっています。SNSで炎上→謝罪というプロセスが繰り返されるのもその表れです。

発達した消費社会は、同時にある種の息苦しさや

生きづらさを生み出してもいます。そのひとつの例が、現在の教師が置かれている状況です。個性や多様性が重視される社会において、教師は個別具体的に様々なニーズに応えることが要求されます。しかもそうした仕事には終わりがなく、ハードルは上がり続けます。一方児童や保護者もまた、欲求が満たされないまま悶々とした思いを抱えなければなりません。現代の教育の困難さのひとつは、社会のすみずみまで行き渡った消費社会の論理と向き合わなければならないということから生じています。

もちろん消費社会のあり方が社会や学校のあり方を改善してきたことも否定できません。消費者は提供されたサービスをただ受容するしかないという関係性から一歩踏み出すことは、よりよいものを生み出していくために必要です。学校教育もまた、日々改善のための努力を続けています。

こうした時代のなかでは、ときに消費社会を相対化する、そこから少し距離を取ってみることも必要なのではないか、と思います。こう書くと、大学で教育というサービスを提供する者の自己弁護のように聞こえるかもしれません。しかし本意は別のところにあります。では具体的に何をすればよいのでしょうか。ここでは2つのことを挙げてみます。ひとつは他者への想像力をもつ／磨くことです。自己の合理性だけでなく、他者の合理性に思いを巡らせ、できる限り理解しようとしてみる。それを行うのに多様な人びとの集まる大学は格好の場です。もうひとつは生産者になること。大学では研究という新たな知を生み出すことが期待されます。ここでいう生産には、学問だけではなく、様々な活動や体験も含まれます。もはや皆さんは単なるお客さんではありません。一人ひとりが生み出す・創造する人として輝かれることを願っています。



医学部長・医学科長

石橋 恭之

大学生活を送るにあたって

Stay Hungry, Stay Foolish

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月からいよいよ大学生としての新生活が始まりました。いかがお過ごしでしょうか。皆さんはこれまで、小～中学校の義務教育から始まり、高校、そして大学へと進学してきました。これまでは家庭や地域の学校のように、ごく限られた社会の中で過ごしてきたと思います。しかし、大学生になると自宅から通うにせよ、家庭から離れ一人暮らしを始めるにせよ、今までより自由な時間があり、それによって様々な出会いが生まれます。この期間は社会に飛び出す前の、人生の中で最も重要な時期であると思います。

タイトルの“Stay Hungry, Stay Foolish”という言葉 皆さんは聞いたことがあるでしょうか。少し古くはなりますが、Apple創始者の一人であるSteve Jobsが、2005年に米国スタンフォード大学の卒業式で学生に向けたスピーチの有名な一節です。直訳すると“ハングリーであれ、愚か者であれ”という事になります。この言葉は私の好きな言葉の一つです。スピーチの中でJobsは、彼の人生の転機となる3つの物語を話しています。1つ目は点と点のつながり (connecting the dots)、2つ目は愛と敗北 (love and loss)、そして3つ目が死 (death) についての物語です。詳細はインターネットなどでみていただければと思います。1つ目の点と点のつながりについての物語の中で彼が伝えたかったことは、我々は将来を見据えて今を生きることが出来ないということです。Jobsは複雑な家庭の事情もあり、高額な学費を払ってまで大学に行く意義を見失い、折角入った名門のリード大学を中退してしまいます。しかし、大学を中退してから友人の寮に寝泊まりしながら隠れて受けたその大学のカリグラフィ calligraphyの講義が、その後にマッキントッシュの

設計に役立ったと回想しています。Jobsはマッキントッシュ開発のため、将来に役立つことを考えて、カリグラフィを学んだわけではありません。たまたま興味をもって学んだ事が、その後の人生に大きく役立ったわけです。

学生の皆さんには時間がたくさんあります。大学時代に何か夢中になるものを見つけて下さい。勉強であれ、スポーツであれ、音楽であれ、なんでも構いません。今までやってきたことを続けるのもよし、ここから新しいことを始めるのもよしです。それらが将来どのように役立つのかを、今は知る由はありません。すべてにおいて、一生懸命やればやるほど超えなければならないハードルは高くなり、何度も壁にぶつかることがあるでしょう。また、チームで行う課外活動などであれば、様々な考えを持った仲間との間に生じた軋轢が壁となるかもしれません。その壁は、己の中だけのものであっても、仲間との間のものであっても、目標に向けて問題を解決し、前に進んでいくことは、その後の人生の大きな糧になると思います。

今、皆さんがやっていることの意義、点と点を結びつけるのは、時間が過ぎてから過去を振り返り初めて分かるものです。大学生活は長いようであつという間に過ぎていきます。目的もなく、ただ時間を費やすのも大学生の特権かもしれません。しかし、この限られた大学生活の中で、目先の損得は考えず、何か夢中になれるものを見つけて下さい。“Stay Hungry, Stay Foolish”の気持ちを忘れずに、有意義な大学生活を、この弘前の地で送って下さい。応援しております。



医学部保健学科長

敦賀 英知

高度な医療技術と
豊かな人間性を持った医療従事者の育成

「安心と挑戦」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
入学式の大きな会場で皆さんと対面して、若い希望に満ちたエネルギーに圧倒されるとともに、将来を担う皆さんにたくましさを感じました。

さて、皆さんは入学されて、まず、弘前の春を目の当たりにされたことと思います。桜、そして中腹まで雪で覆われた岩木山に魅入られたのではないのでしょうか。

白雲の春は重ねて立田山をぐらの峰に花にほふらし
吉野山さくらが枝に雪散りて花遅げなる年にもあるかな

これは私の好きな藤原定家と西行法師の和歌で、ともに『新古今和歌集』に採られたものです。高校時代、古典の授業でこの和歌を暗唱して心の風景として脳に刻み込まれていますが、実際の風景と重なったのは弘前に住むようになってからです。これまで札幌、福岡、弘前と移り住みましたが、弘前の桜と岩木山は私の心に大きく沁みわたり、現実の風景と心の風景とが重層的に響いています。皆さんはどのように感じたのでしょうか。おそらくは弘前に生まれ育った入学生にとっては、この風景は弘前の街並みとともに当たり前のように心と体の一部になっているのでしょう。

皆さんは、大学受験を通して確信を持てないことに挑戦する不安な時期を経験したことと思います。そして、若い時分には漠然とした不安の中で自らの可能性を信じて、しっかりと努力することができるエネルギーがあります。皆さんは本意不本意にかかわらず、それを受け止めて、ともかくも先に進むという人生最初の大きなイベントを乗り越えたことになります。この先、どの方向にどのような足取りで進むかは皆さん次第です。いろいろなことに喜び、悩みながら心身ともに成長する貴重な大学生活とされることを願っております。

文化の香り高い弘前市にある弘前大学医学部保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を有します。また、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部、医学部の5学部から構成される総合大学の一翼を担い、社会の要請に応えようとしております。そして皆さんは、保健学科、医学科、附属病院が同じキャンパスにあるという良好な環境で、幅広い教養と専門的知識・技術を修得し、医療プロフェッショナルとしての資質と姿勢が養われ、一人一人が社会に貢献することが期待されています。とりわけ、弘前大学は国立大学であることから、皆さんは国民から責務を託されていることを意識して学生生活を送ることになります。あまつさえ、弘前大学は青森県にある唯一の国立大学であり、皆さんは日々の勉学や生活の中で、地域社会が皆さんに大きく期待していることを切に感じると思います。今後、どのような形で地域社会に貢献できるかということも頭の片隅に置いていただいて大学生活を送ってもらいたいと思います。

現在、社会的に不安定な時代を迎えておりますが、医療職は将来的に安心のある進路先であり、皆さんが学ぶ保健学科には着実な将来設計を描く多くの学生が集っております。一方で、多様な専門性のある教員や研究者のいる国内最大級の保健学科、そして様々な先進的プロジェクトを行っている総合大学に入学されたことで、新たな出会いや挑戦が可能です。弘前の自然豊かで歴史も深い落ち着いた土地で「安心感」をベースに、幅広いことに「チャレンジ」して有意義な学生生活を送ってください。

| 特集 |

新学期を迎えて



医学部
心理支援科学科長

小河 妙子

心理学を中心とする高度な専門知識・技能、
豊かな人間性・倫理性を兼ね備えた心理支援職の養成

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
皆さんが弘前大学の新たな一員となられたことを心より祝福します。この学園だよりが発行される頃は、初夏が近づいている頃でしょうか。大学生活にも徐々に慣れて、勉学、部活・サークル、アルバイトなど様々な活動に取り組まれていることと思います。

私が所属する心理支援科学科は、弘前大学に比較的最近作られた新しい学科です。公認心理師という国家資格の需要が高まる中、平成27年に公認心理師法が施行されたことを受け、令和2年4月に医学部に新設されました。本学科が医学部に設置されたことにより、保健・医療分野の幅広い専門知識と技術を身につける絶好の環境が提供されています。昨年度3月に卒業した第1期生から現在に至るまでの学生たちは、この新しい環境を活かし、多くの成果を上げています。

この春、大学院保健学研究科に心理支援科学専攻修士課程が新設され、第1期生が入学しました。これにより、学びの場が一層拡がり、専門的な知識と技能を深める新たな機会が提供されています。1期生というのは、どこの学校や組織でも、なかなかチャレンジングです。未開拓の地を切り開いていく冒険心や好奇心に溢れ、すでに青春時代が遠くなった大人から見ると、若い学生達がキラキラ輝いて眩しく見えます。

入学にあたり、新入生の皆さんに心に留めてほしい重要なことがいくつかあります。一つは、友情を育むことの大切さです。大学生活は、生涯の友人との出会いの場となるでしょう。また、新しい挑戦に対して戸惑いや不安を感じることもあるかもしれませんが、失敗を恐れずにチャレンジする勇気も大切です。これらの経験が、将来的に皆さんを優れた職

業人や専門家に成長させる基盤となります。

弘前という町は、豊かな自然と深い歴史的背景を持つ場所です。四季折々の風景が心を癒やし、新たな発見やインスピレーションを提供してくれるでしょう。この美しい環境を生かし、様々な活動に積極的に参加することをお勧めします。

皆さんの学びは、教室内に限定されるものではありません。地域社会との連携も重要な要素です。学部や大学院での様々な実習・演習を通じて、地元の様々な施設で多様な人々と出会い、協力協調を学び、実践的な経験を積むことも、私たちの教育プログラムの一環です。

私たちは皆さんが有意義な大学生活を過ごし、卒業に向けて成長する貴重な4年間を全力でサポートしますが、その道のりには皆さんの持続的な努力が不可欠です。これから一緒に学び、成長していく日々を楽しみにしています。皆さんが弘前大学での学生生活を全力で楽しみ、充実させることで、思い出深い4年間を過ごせることを心から願っています。



理工学部長

金本 俊幾

科学力を養い、人間力を磨く

理工学部での学生生活について

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

入学してから約3ヶ月が経ちましたが、学生生活のリズムは整ってきましたでしょうか。大学生活の最初の数ヶ月は、新しい環境や授業に適応するための大切な期間です。もし、まだ慣れないことがあっても、焦らずに自分のペースで進んでください。慣れるまでには時間がかかることもありますが、自分を大切にしながら進めていきましょう。

理工学部では、3年次後期または4年次から研究室に配属され、卒業研究に取り組むことになります。研究室では、これまでに修得した教養科目から専門科目までの知識を総合的に活用しながら、特定の課題に関する文献や実験・調査手法を学びます。そして、その課題に関して解決すべき問題や考慮すべき条件を論理的に整理分析し、解決方法を立案し、期限と進捗状況を考慮しつつ、実験や調査を通じて解明し、その成果をまとめていきます。研究は非常に創造的で刺激的な活動ですが、そのためには心身のバランスが重要です。週末や休暇を利用してリフレッシュする方法を見つけてください。一人で解決できない不安や悩みがある場合は、友人や教職員、保健管理センターなどの学内の相談窓口を活用してみてください。あなたが一人で悩む必要はありません。

皆さんはこれまで、大学に入学するために多くの努力をしてきました。高校までの勉強は、大学入学のためだけでなく、大学での学びを支える基礎を築くためのものでした。大学では、これまでの学習で身につけた基礎を大切にしつつ、新しい学問体系に挑戦してほしいと思います。専門分野の学びを通じ

て、各学問体系の共通の基礎や深い理解を楽しみながら学んでください。

大学での学びは、自分自身の知的好奇心を満たし、新たな知識を得るだけでなく、それを社会に役立てる力を養うためのものです。皆さんが本学で専門分野の知識を深め、自らの未来を切り拓いていくことを期待しています。挑戦することを恐れず、未知の世界に飛び込んでください。そして、学生生活を充実させ、自分自身を成長させる機会を大いに活用してください。

弘前大学の理工学部は、理学と工学の融合教育を目指して設置されました。これは、他の国立大学に先駆けた取り組みです。科学者や技術者が最先端の研究開発を行う際には、自分のフィールドやアプローチが理学的か工学的かを意識することは少なく、理学と工学の融合的な視点から社会の課題解決に向けて進めることが求められます。融合教育により、複雑で多様な現代社会の問題に対して、的確な解決策を見つける力を養うことができます。

最後に、皆さんのこれからの学生生活が実り多いものとなることを心より願っています。新たな知識や経験を積み重ね、多くの仲間と共に学び、成長していくことを楽しみにしています。改めて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活が充実し、素晴らしいものになるよう願っています。教職員一同もサポートに努めてまいります。頑張ってください。

| 特集 |

新学期を迎えて



農学生命科学部長

東 信行

世界や地域のために食と環境を考える

未来の自分のために 漠然とした不安を払拭しよう

新入生の皆さん、入学からこれまで忙しい日々だったのではないのでしょうか。新しい環境には慣れてきたでしょうか。大学生になっていろいろなことに挑戦しようとやる気満々な頃と思います。大変なことも多いですけど、飛躍のチャンスでもあります。長く大学教員をやっている人間の目から見ても、コロナ禍の緊急事態で正常な大学生活を送れなかったフェーズから、ほとんどの制約が解かれる年になりました。中学校や高校では思い切りやれない状況があったと思いますが、大学での授業や実習、サークル活動、友人たちとの交流も以前の大学に戻ったかのように見てとれます。私自身、改めて普通に暮らせることの大切さを感じていますし、皆さんもそう感じているのではないのでしょうか。これからの大学生活はぜひその時その時を大切に、やりたいことをみつけ、挑戦してもらいたいと思います。

一方で、この時期は新しい生活とやりたいこととやれていることとのギャップで、「漠然とした不安」を感じている人たちもいるのではないかと危惧しています。この漠然とした…は結構厄介で、新入生の皆さんだけではなく、私のように還暦を終えた人間にも襲い掛かってくることがあります。個人的な経験を思い出してみると、単純に自分の将来に対する不安がふと持ち上がってきたときや、締め切りのあるような事象をたくさん抱えてしまっているときにあらわれていたように記憶しています。今の皆さんはまさに受験勉強を終えて、新しい生活のリズムを整え、新たな目標に向かおうとしている最中で、慣れないことを日々行っているのではないのでしょうか。「漠然とした不安」の対処法の一つを個人的な経験からお伝えしたいと思います。ありていなのですが、「漠然」を一つ一つ具体化することはやはり効果があります。私の経験の中での不安は、やはり若い時代、特に学生時代に多くありました。今でも思い出すが、博士後期課程2年生の秋に、先輩

(当時は大学の若い教員)らに連れられて、息抜きと称してフィールドに行った時のことです。それ自体は楽しかったのですが、一年後に学位論文が書きあげることができるのだろうかという不安が襲ってきて、しばらく不眠症になり、パフォーマンスも急激に落ち始めました。これではいかんと、もう一度研究計画と今までのデータとを眺めて、一つ一つ解決することに努めました。すると、不安もだいぶ少なくなり、通常運転に戻ることはできたように記憶しています。その時の経験で特に皆さんに伝えたいのは、課題を分解し、一つ一つ、一日一日の積み重ねをすることが大切だということです。

少し飛躍しますが、私の研究対象である野生動物の特に哺乳類や鳥類では親元から離れた直後が危険であり、なおかつ急速に能力を高める時期になります。皆さんもその段階にいますので、4年後の自分は今の自分ではありません。変化は一日一日の積み重ねで起こります。その中にはたまにホームラン級のこともあるかもしれません。もちろんすべての日々がうまくいくわけではなく、失敗したり、つらくて後戻りすることもあるでしょう。でもそれも必要な経験なんだと信じて、一つ一つ片付けましょう。気が付いたら山の頂上にいるかもしれません。

人としてのダイナミックレンジは経験知によるところも大きいかなと思いますし、若い時に経験した短い期間の経験が、その後の人生で生きるときが多々あります。その経験の密度や質は大事です。そう考えると歳をとるのも悪くなく思えてきます。さあ、弘前で過ごす4年間でどんな成長を経験できるのか、挑戦してみてください。

弘前大学への入学、心から祝福いたします。皆さんの将来に期待しています。

春の風景

Photograph



松本
涼雅弘前大学の
新たな一員と
なって人文社会科学部
文化創生課程 1 年

弘 前大学に入学して、早くも1ヶ月経ちましたが、本当に一瞬だったように感じます。

大学での生活に少しずつですが慣れてきて、自分自身も僕の周りでも、サークルやアルバイトなど、大学の授業以外の活動を始めようになりました。

先生方や先輩たちはとても優しく新入生に接してくれていて、僕としてはとても馴染みやすかったです。

入学前には、大学の講義は90分あると聞いて少し不安に思っていたのですが、実際に講義を受けてみると90分という時間はそんなに長く感じませんでした。

講義はある程度自分で履修登録をするので、そのおかげで自分の興味のあるものを選んで受けられているのが大きいです。

僕は多言語を勉強したくて弘前大学に入学しました。色々な言語を身に付けて、外国の文化、主に文学などを学びたいと思っています。入学前には「自主的に勉強して、どんどん言語を身に付けていこう」と意気込んでいたのですが、新しく始めた一人暮らしに、まだ慣れていないというのもあって、4月中はあまり時間が取れませんでした。5月からは弘前大学で実施している英会話講座も始まるので、少しずつ勉強時間を増やしていきたいです。

上野
深月

イメージ

人文社会科学部
社会経営課程 1 年

弘 前大学に入学して、早くも1ヶ月が経ちます。住まいが変わり、生活が変わり。一人でいる時間が殆どになり、心の声が増えました。私はそんな日々を過ごす中で、ふと、頭に過ることがあるのです。4年後の私に、何を遺していけば良いのだろう、この実りある時間を、どのようにして満たすべきなのだろうか、と。「行動は自らのイメージを映す鏡である。」ドイツの偉人ゲーテの言葉です。この先の人生、自分がどのように生きていきたいのか。どうなりたいのか。それをじっくり考えることの出来る場所。

それが大学だと思っています。ここには、授業の他にも、サークル活動、留学、ボランティア活動、大学内の図書館や資料館等々、イメージを浮かび上がらせるための材料がたくさん揃っています。たかが1ヶ月、されど1ヶ月。未だ私の鏡には確固としたイメージなんてものは写っていませんが、この大学生活を通して、徐々に輪郭を頭にしていくことを信じております。何はともあれ、有意義な時間を過ごしていきたい、という話でした。

浅瀬
石久仁子冒険の旅、
はじまる人文社会科学部
人文社会科学専攻 1 年

卒 業から30年以上も経ち、今ごろ大学院生になれるなんて思ってもいなかった。憧れはあったにしろ、それは無理。進学する代わりに見たいものを見、会いたい人に会いに行く旅をする方がいいと思っていた。

40才で教員を早期退職したのは育児と介護のためだったのに、昨春秋に母が急逝、今春子どもたちが全員社会人になるタイミングで少し途方に暮れ、残りの人生で青森県の文化資源と地域教育とを結べたらいいなと思い、ふと大学院で学びたいという魔?が差した。そこからの不思議な流れは別の機会に紹介するとして、かくして母校、弘大に再び入学してみる

と、学ぶことのおもしろさの中で毎日が飛ぶように過ぎていく。たまりにたまった雑学が整理整頓されていくのも気持ちいい。家から通える大学がある幸せをしみめ、学ぶことは遠くへ旅することと同じだと実感している。

ただ一番困ったのは提出書類や講義、連絡などがすべてスマホやパソコンのシステム下にあることだ。目が悪い上に老眼も進み、なるべく身体を労りながらと思っていたが、そんなのんきなこと言ってもらえない。子供より若い同級生や先生方、職員みなさんや家族に助けられながら、楽しい挑戦と冒険の日々が続いている。



伊藤 誠勝

大学生活という 貴重な経験

人文社会科学部
文化創生課程 3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとう
ございます。弘大生として2カ月
ほど過ごして、次第に大学生生活に慣れ
てきた時期でしょう。私も2年前に皆さ
んと同じように入学して、慣れないなが
らも講義やサークルなどに奮闘していた
日々を思い出します。

今回は弘大生の先輩として、一つ伝え
たいことがあります。それは大学生生活
の中で興味関心のアンテナをひろげてほ
しいということです。今の皆さんの年代で
過ごす大学生活というのは人生に一度し
かありません。大学では様々な人に出会
い、多種多様なモノに触れてください。
それには大きな価値が含まれています。
知り合った人にはそれぞれ得意なもの
があり、自分にはないものを持ち得てい

可能性があります。物事に取り組む際に
「知らない」ということは大きな障害にな
ります。そのため、食わず嫌いをせずに
いろいろなものを学び、吸収してほしいと
思います。吸収した分、知識が増えるだ
けでなく、幅広い視野を持つことができ
ます。大学生活を通して、賢くなるだけ
でなく、人としても成長してほしいです。
大学にはそのようなチャンスがいっぱい
転がっています。ぜひ、それを自分から
取りに行く姿勢で過ごしてほしいです。

これからの人生で辛いことや大変なこ
とが皆さんに立ちはだかると思います。
そんな時に「大学生活楽しかったな、充
実していたな。」と思えるように、後悔
が無いように大学生活を満喫してください。



佐藤 礼

新入生の 皆さんへ

人文社会科学部
社会経営課程 3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとう
ございます。大学生活にはそろそ
ろ慣れた頃でしょうか？学内で皆さんの
姿を見かけると自分の新入生の頃を思い
出しますと言いたいところですが意外と
覚えていないものでした。おそらく大学
生活に慣れるのに精一杯だったのだと思
います。

さて皆さんは大学生になってから「大
学生にしかできないことに挑戦すべき」
「早め早めの行動が大切」と言われるよ
うになることが多くなったのでは無いで
しょうか？ですが自分個人の意見として
無理して急いで色々挑戦しなくても良い
と思っています。

「急いで事は仕損ずる」です、自分の
ペースで落ち着いていきましょう。ある日
「これだ！」と思える何かが見つかるはず
です。私の場合は大学生活で自分の専門分
野以外の事を学んでみるのが転機となり
ました。自分は企業戦略コース所属で主に
経営学を学んでいますが、博物館学を学ん
でみたり教育学部でデザインを学んでみ
たりと興味関心の赴くままに学ぶことで、
自分が将来どんな人間になりたいのか考え
られるようになりました。

弘前大学は総合大学です。皆さんもど
んどん自分の専門分野外に出てみて下さ
い。新しい発見ができるかもしれません。
Have fun!!



富田 杏

1歩踏み出す ということ

人文社会科学部
社会経営課程 3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとう
ございます。そろそろ新しい環境
に慣れ始めてきた頃だと思いますが、大
学生生活を楽しむことはできていますか？
これまでとは違って自由に思いのままに
行動できるようになる半面、責任を伴う
部分も増え、大変な思いもしてしまうか
もしれません。

しかし、自由で思いのままに行動でき
る場面が増えたからこそ、学べることは
たくさんあります。中でも私が体感した
ことは、とにかく行動する、ということです。
大学入学以前の私は受け身の姿勢
が多く、時間がたって「こうしておけば

よかった」と後悔することが多くありま
した。そして入学後、大学生活を送る中
で、サークルに所属するのもアルバイト
を始めるのも自分から行動しなければ、
スタートラインにすら立てないというこ
とに気づきました。

今後、新入生の皆さんには充実した大
学生生活を送ってほしいと思っています。
そんな時、必要なのは自分から行動する
勇気なのだとは私は考えています。もう少
し早く動いておけば、と後悔してしまう
前に1歩踏み出してみてください。この
文章が誰か1人でも行動を起こすきっか
けになれば嬉しいなと思います。

奈良 京香

弘前大学に
入学して教育学部
学校教育教員養成課程 1 年

新 コロナウイルスの影響で多くのことを我慢した高校生活が終わり、新たな学校生活が始まりました。弘前大学に入学できたことをうれしく思います。最初は何もわからず不安でいっぱいだった私たちも入学して1か月が経つと、授業はもちろん、部活動やサークルなどみんな楽しい日々を送っています。

大学の講義は90分なので、最後まで集中できるかすごく不安だったのですが、高校の授業とは違い専門的なものが多いので、どの講義も内容が濃くとても楽しいです。また、自分が興味のあることの講義を受けることや、高校で学んだこと

をより深く学ぶことができるのも大学ならではのと感じています。

私が1か月経って思ったことは、大学は中学や高校と違いとても自由な場所だということです。当然自由であることには責任が伴ってきます。弘大生であることの自覚を持ち、自分で好きなように時間を使うことができる自由な4年間だからこそ、ボランティアや実習に積極的に取り組み、様々なことを経験したいです。そして、将来教員になった際に弘前大学に入学して良かったなと思えるように、人としても成長し、充実した4年間にしたいと思います。

岩川 凜太郎

弘前大学に
入学して教育学部
学校教育教員養成課程 1 年

弘 前大学に入学してから早くも一ヶ月の月日が流れました。一人暮らしや大学生活などはどれも初めてづくしで楽しさや驚き、そして弘大生の一員となれたのだという充実感とともに過ごしています。これからの四年間がここ弘前で流れていくと考えると未来への期待が募っていくばかりです。

さて、授業に部活と大学生らしい生活が始まったわけですが最近の日々の中で感じるがあります。それは私たちが大学生活を通じてひとりの「社会人」となっていかなければならないのだということです。これは、誰かに強要されているわけでも期限があるわけでもありません。しかし間違いなく多くの人に自主

的に求められていることだと思います。さまざまな人との関わり合い方、自分自身との向き合い方、そして広い社会への参加のしていき方。どれも簡単に身につくわけでも、明確な正解があるわけでもないと思うのですが、私たち新入生それぞれがこの大学生活のなかでさがしていけたらいいと思います。

なにかの目標をもって弘前大学に進学した皆さんは一所懸命にこれからも努力を続け、まだ自分の目標を見つけられていない皆さんもきっとこの四年間のたくさんの出会いや経験の中から素敵なゴールを見つけられると思うので、新入生一丸となってこれからの日々を豊かにしていきましょう！

大沼 愛

弘前大学に
入学して教育学部
養護教諭養成課程 1 年

弘 前大学に入学してから、約1ヶ月が経ちました。弘前の街で新しく始めた一人暮らしの中、右も左もわからず不安が多くありました。しかしそんな中、地域の方々や先生方、先輩、新しくできた友達の優しさにたくさん支えていただいたおかげで、少しずつ新生活に慣れていくことができました。

大学生になってから、親や先生に頼らず自分で選択する機会が格段に増えました。一人の人間として責任を負い、自分で選択していくことにはいまだに心配が尽きませんが、同じ学科の友達と情報を共有しあったり、助け合ったりすること

で選択をする時の不安を和らげることができています。横の繋がりの大切さを感じみと痛感する日々です。

大学生活では、日々の授業はもちろん、サークル活動やボランティア活動にも積極的に参加したいと考えています。私が目標としている適応力が高く多くの人の助けとなる養護教諭を目指して、より多くの人と関わりながら幅広い教養と視野を身につけて、大学4年間で有意義に過ごしていきたいです。

新保 誠一郎



大学生活は地域
の特徴を感じて
みよう

教育学部
学校教育教員養成課程 3年

教 育学部小学校コース3年の新保誠一郎と申します。新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。これからの大学生活に期待が膨らんでいる一方、新生活には付き物の不安もあるかと思います。私自身、出身が千葉県ということもあり、地方も異なる地での新生活がとても不安でした。その時に私の支えになったのが音楽でした。新生活の不安を抱えている方は、音楽でなくても自分の趣味を大切にしつつ、少しずつ新生活に慣れてほしいと思います。

また、大学生活は高校時代よりもできることが増えます。勉強はもちろんですが、恋愛や旅行など、大学生活でしかで

きないことを思い切り楽しんでほしいです。その中でも私がおすすめするのは「地域の特徴に触れること」です。私は青森の地に降り立った瞬間から、現地の人々が話す言葉でさえ新鮮に感じました。また大学の友達と話している時も、雪国の小学校や中学校ではスキーの授業があることなど、関東の大学に進学していたら知ることのなかったことを知ることができ、弘前大学に入学して良かったと思います。ぜひ他県出身の人と知り合って、話をしてみてください。

大学生活はとても楽しいです。それぞれの楽しみ方で、大学生活を充実したものになるよう心より願っております。

山本 歩実



今この瞬間を
大切に

教育学部
学校教育教員養成課程 3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学での新生活は楽しんでいますか。

私から皆さんにお伝えしたいことは、どんな時間も大切にしてほしいということです。皆さんが中高生の時、「3年間はあっという間だよ」と先生に言われ、本当にあっという間に卒業し、ここまで来たのではないのでしょうか。大学生も同じです。4年間ありますが、あっという間に過ぎていくと思います。私も3年生になりましたが、もう大学生活の半分が終わってしまったのか！早すぎる！という気持ちです。今も過ぎ去っている1分1秒がどんどん恋しくなります。

大学生は自由な時間が多いです。その分時間の使い方は皆それぞれ違うと思います。大学で好きな分野について存分に学ぶ時間、部活やサークルで仲間と一緒に青春する時間、バイトに勤しむ時間、一人を楽しむ時間、どれも大切です。その中で、自分を高めるためにも時間を使ってみませんか。今だからできることに挑戦したり、スキルアップしたりして、将来の自分のためにも時間を有効活用してほしいなと思っています。

今この瞬間をも大切に、一生に一度の大学生活が皆さんにとって有意義で実りあるものとなることを心から願っています。

渡邊 遥



新入生の
みなさんへ

教育学部
養護教諭養成課程 3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しく始まった大学生活には慣れてきたころでしょうか。自分が入学した当初は、新しい環境、初めてのひとり暮らし、大学生活に馴染むのに必死でした。そんな自分が現在、楽しく大学生活を送る上でやっていてよかったと思うことをお話したいと思います。

まずひとつは恐れずになんでもやってみることです。大学はとても自由なところなので、勉強やサークル、趣味やバイトなど多くのことに挑戦できます。特に人脈を広げることは、これからの人生を豊かにすることに繋がると思います。私

は人見知りなので、はじめはとても苦労しましたが、3年間で様々な人と関わることが出来たので、みなさんにも人との関わりを大事にして大学生活を送ってほしいです。

もうひとつは好きなことを探すことです。大学生活の中で、自分自身を見つめ直し、自分の好きなことを探すことは、将来に繋がっていくと思います。大学生活は長いようでいて短いので、自分の「好き」を仕事にできるように、まずはなにが好きか探してみるといいと思います。弘前大学に入学した皆さんの大学生活が楽しく、そして有意義なものであることを祈っています。

木村
颯太



弘前大学の
学生になって

医学部医学科 1 年

弘 前大学に入学して早くも 1 ヶ月が過ぎました。

初めての慣れない弘前での一人暮らしと大学生活に不安抱いていた 4 月でしたが、静かで穏やかな場所で、真面目で努力を惜しまない友人たちに囲まれて非常に充実したスタートを切ることが出来たと思っております。

私は大学 6 年間で、医師になるための知識や技術のための勉学に努めることはもちろんのこと、部活動やアルバイトなどを通して、人としても一回りも二回りも成長する期間にしたいと思っています。私は、高校から始めたラグビーを大学でも続けるためラグビー部に入学しました。

この 15 人の個性が集まったチームで同じ目的のために 1 人 1 人が皆のために身体を張り、意思疎通のコミュニケーションが求められる競技を通して、将来チーム医療を実践し、患者さんそれぞれの思いを汲み取り寄り添える医師に近づきたいと思っています。他にも自分が興味や関心を持ったことに自ら取り組み成長の糧にしていきたいです。

最後に今この入学直後の意気込みを忘れることなく、またこの素晴らしい環境とこれから先の様々な経験や出会いに感謝しながら、長い大学生活を過ごしていきます。

工藤
琴巴



医師への
第 1 歩

医学部医学科 1 年

入 学から早くも約 1 か月が経ち、友人や先生方に助けていただきながら少しずつ大学生活にも慣れてきたように思います。

生まれも育ちも弘前市である私にとって、弘前大学医学部医学科は憧れでした。今、その憧れていた場所で新しい生活をスタートできたことをとても嬉しく思います。

授業が始まり、自分で組み立てた時間割に基づいて様々な地域や国の出身の方たちと一緒に勉強することができ、大学での日々は新しい発見でいっぱいです。特に専門科目の授業では、将来の医師と

してのキャリアに直結する内容を学ぶことができ大変充実した時間を過ごしています。

将来医師として医療の現場でしっかりと役目を果たせるように、これからの 6 年間でたくさんのことを学んでいきたいと思っています。講義や実習で医学知識や診療技術を身に付けることはもちろん、アルバイト等の経験を通してコミュニケーション力を高めることで、社会を生き抜く力を養いたいです。この弘前大学での学びを通して、青森県の医療に貢献できる医師になるための道のりを着実に歩んでいきたいと思っています。

西山
良輝



弘前と自分

医学部医学科 2 年
(編入生)

弘 前大学医学部医学科に入学して早 1 ヶ月が経過し、“弘前大学の新たな一員になったことについて”というテーマで文章を書かせていただいておりますが、若干の困惑（笑）を覚えます。

と言いますのも実は、2018 年より本年 3 月まで弘前大学に既に 6 年間（弘前大学保健学科、同大学院修士課程）日々通学していた身であり、4 月より学士編入生として学びの機会をいただいた次第でありました。岩木山山頂の雪の様子に例年より早い春の訪れを垣間見て、桜祭りに感嘆し、これまでと同じ家から同じキャンパスに通学するという日常の傍ら、医師に

なるための学びに日々全力で向き合うという全くの未知の生活の、いわば二面性に自分自身不思議な感覚を覚えずにはいられない今日この頃であります。

高校卒業から約 10 年経ち、ようやく医師になるための第一歩を踏み出したことを深く光栄に思うと同時に、数多くの方々のおかげであって今の自分がいることを改めて肝に銘じ、常に謙虚に、感謝を忘れずに、友達と切磋琢磨しながら 3 度目の弘前大学での学生生活（笑）を適宜楽しみつつ、自分自身の思い描く医師像に近づけるよう一途一心で邁進していく所存です。

四戸 希



人との繋がりを大切に

医学部医学科3年

新 入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。入学してから早くも2か月が過ぎ、大学生活にも慣れ始めたことでしょうか。私からは新入生の皆さんに、人との関わり、繋がりを大切にしてほしいということを伝えようと思います。

現在は以前に比べてコロナウイルス関連の規制が大幅に緩和され、授業がオンラインから対面になったり、課外活動を積極的に行えたりするようになりました。そのため、同期や先輩などの多くの人と関われる環境だと思います。そこで築けた交友関係や縦の繋がりを大切にこれからの大学生活を送つ

てみてください。医学部で学ぶ内容は暗記量が膨大で、自分ひとりだけでは手がつかなくなったり、塞ぎ込んでしまったりすることもあります。しかし、そんな時でも人との関わりがあればアドバイスをもらえたり、一緒に教えあったりすることで乗り切ることができます。

学年が上がるにつれて人との繋がりの重要性を実感できると思うので、ぜひ今の内から部活動やサークル、アルバイト等に積極的に取り組み、多くの人と関わりを作って、充実した大学生活を送ってください。

関島 大輝



邂逅

医学部医学科3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。部活やサークル、アルバイト、そして授業など新生活を楽しんでいますでしょうか。

皆さんの参考になればと思い、私が入学後に驚いた同級生たちの生態を紹介していきたいと思います。

まず、起業する人と起業に向けて活動する人です。将来経営者となるために自主的に勉強している人もいれば、すでに起業した人もいます。医学生であることを活かしながら、医学と異なる分野でも研鑽しているのが素敵です。いつか私も雇って欲しいと思っています。

次に勉強面です。低学年から研究室を訪ねる人もいますし、英語力を高めている人もいます。学ぶ意志ある者に優しい先生が多く、研究に挑戦する機会をいただけることもあります。

紹介しきれませんが、教授の補助としてテレビ出演を果たしたり、サークルを新設したり、部活に熱心に取り組んだりと様々な方面で活躍する同級生に刺激をもらう毎日です。

皆さんはどのようなキャンパスライフを描いていくでしょうか？皆さんそれぞれのカラーで、弘前大学と一緒に盛り上げていきましょう。

倉本 莉名



樹のような大学生活を

医学部医学科5年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式の日、真新しいスーツに身を包み、不安と期待が入り混じった瞳でキャンパス内を歩く様子を見かけました。そんな入学式の日から1か月が経ちましたが、大学生活はいかがでしょう。

授業や課外活動も本格的に始まり、高校と大学の違いを実感されている方もいらっしゃるかもしれません。大学では高校よりも制限されることが少なく、活動の幅の広がりを実感することが多いと思います。学友や課外活動で出会う人々もより多様になり、刺激を受けることもあ

るでしょう。学びや人との繋がりの中で人間性を涵養し、未来へと羽ばたく準備を重ねる。大学生活は一本の樹の成長、つまり幹を太くし強さを増し、いずれ実を結ぶ枝を広げる様に似ていると思います。桜や林檎が人の力を借りながら大木に成長し、人々に恵みをもたらす様に、弘前大学での日々を経て社会の中で笑顔を創る存在になれるよう、一緒に成長していきましょう。

可能性に満ちた皆さんの大学生活が実り多きものになること、その実りを基にいつの日か自分の歩みを晴れやかな表情で振り返ることを願っています。

對馬
日陽



将来に向けて

医学部保健学科
看護学専攻1年

弘 前大学に入学して早くも約1ヶ月が経ちました。時間が経つのは早いなと改めて実感している今日この頃です。大学生活4年間は、自分が想像しているよりも過ぎていくのがあっという間のだろうと、今から予測できてしまいます。貴重な大学生活を無駄なく充実したものにしていくために、部活動や研修、バイトなど様々な事に積極的に参加して新しい経験を積んでいきたいと思います。

私は将来、NICUで新生児の看護をしたいと考えて入学しました。より専門的に新生児のケア、家族のケアをしていけるように助産師の免許を取得したいです。また、弘前大学では専門科目以外にも教養科目を

学ぶことができるため、自分の視野を広く持つことができます。将来NICUで働く際に様々な専門の人達と協力して関わり、良い治療をしていく上で、視野を広く持つことはとても大切なことだと思っています。学生のうちから様々な経験を積むことができる弘前大学に入学することができ、改めて嬉しく感じます。

大学生活4年間、楽しいことばかりではないかもしれませんが、困難は全て自分が成長するために必要な試練だと思うので、前向きに物事を捉えてこれからも日々成長していくために頑張っていきたいです。

宮下
玲菜



次に桜の花が
咲く頃には

医学部保健学科
作業療法学専攻1年

ま だ桜の花が咲く前に入学式を終え、初めての履修登録や広い校舎での移動に慣れず、忙しい日々が続きました。そうしているうちに大学生活に慣れた頃には桜の花は散っていました。手を冷やさぬようホッカイロを握っていた受験からこんなに月日が経ったのかと驚かされます。

大学の授業はこれまでの授業とは大きく異なります。時間が長くなっただけでなく、学部学科ごとに専門分野を学びます。専門分野の勉強をしていると、自分の目標がまっすぐに見えることが嬉しいです。ここへ来たことは正解だったと心から思い、

ほっとします。また、同じ学科の友人たちは皆同じ目標を持っているので、私も頑張ろうと思うことができます。仲間でありライバルである友人に良い刺激をもらいながら勉強に励みたいです。

私はまだ、将来の自分が幸せそうに笑っている姿を想像できません。社会に出ること、大人になることが怖くてたまりません。それでも、何かに精一杯取り組んだ先にはそこでは得られないものがあると信じ、勉強し続けることに意味があると思います。来年、桜の花が咲く頃には少し自信がついていることを願い、大学生活を満喫したいです。

曾和
実桜



数多の不安を
乗り越えて

医学部
心理支援科学科1年

私 は、自分や周りの環境が変化することが苦手です。弘前に来てすぐの頃は、親元を離れて自分だけで生活できるのか、高校までの知り合いがほとんどいない中で新しく人間関係を築けるのか、不安のあまり一晩中泣いた日もありました。しかし、弘前大学に入学して1ヶ月が経った今ではそれらの不安も薄れ、大学での生活や一人暮らしにもだいぶ慣れてきたように思います。

私は将来心理支援職として精神面での障害を抱えた人を助けたいと思っています。しかし、前述の不安が高校生の頃からあり、大学入試のときには弘前大学と地元の大学のどちらを受験するか出願ギ

リギリまで迷っていました。この時私は自分の目標により近づける勉強ができるのはどちらかを考え、家族や先生のひと押しもあって、弘前大学を受験することを決め、結果として合格することができました。

地元に残っていたかったという気持ちがなかったと言えば嘘になりますが、弘前大学に入学してよかったと思っています。大学での4年間を通じて、目標を達成できるように勉強を頑張るだけでなく、自分や周りの変化に臆さず、アルバイトなどの新しいことにも挑戦していけたらいいなと思います。

北川
玲礼新入生の
皆さんへ

医学部保健学科
放射線技術科学専攻3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活が始まって数カ月経ちましたが、大学生活には慣れましたか？勉強や部活、サークルにアルバイトと新しいことが多い中で楽しみなことがたくさんあると思います。大学生活は色々なことに挑戦できる機会があるので、ぜひ広く興味を持ってほしいと思います。

私が思う大学生活の中で大切にしてほしいことは、人とのつながりです。様々な人に会うことで考え方や価値観に新たな視点が生まれたり、人間関係を学んだりできます。さらに辛いときに支えになってくれるのは周りの人たちです。私も勉学において大変だったとき、周りに

一緒に頑張る人たちがいてくれたことで乗り越えられてきたと思います。一緒に夢に向かって頑張っていく仲間も大切だなと感じました。たくさんの方がいる大学だからこそ、いろいろな人と関わって楽しい思い出を作ってほしいです。

さらに大学は高校までと違って、自ら主体的に学んでいくことが大切だと思います。大学は自分の興味のある分野を深めていくには最適な場です。あるいは新たな分野に興味を持つきっかけにもなります。将来の可能性を広げられる大学生活はあっという間に過ぎてしまいます。だからこそ、自分の目標を持ち、様々な経験を積んで有意義な時間を過ごしてほしいと思います。

船山
ひより新入生の
皆さんへ

医学部保健学科
検査技術科学専攻3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきた頃だと思います。さて、今回は新入生の皆さんへ宛てたメッセージということで、私の経験を踏まえてお話ししたいと思います。

まず、大学生活において何よりも大切なことは、勉強です。大学とは学ぶための場です。だからといって勉強漬けの生活を送れというわけではありませんが、勉強を蔑ろにして後々苦しむのは自分だということを忘れないでください。私は、勉強をして損をすることはないと思っています。ぜひ頑張れるだけ頑張ってみてください。

そして、大学生ならではのことも楽しんでください。私は2つのダンスサークルに所属し、バイトもしています。特にサークルは大学ならではの経験で、ダンスに打ち込めるのも大学生までだと思って楽しんでいますし、それが良い息抜きになっています。ぜひ皆さんも、今のうちにしかできない何かに夢中になってみてはいかがでしょうか。

大学生活の中で何を重要視するのかは人それぞれです。何か一つに没頭してもいいですが、自分で考えて、バランスよく全てを楽しむものなかなか良いですよ。ぜひ皆さんなりの大学生活を、自分の手で組み立てていってください。

浅水
空新入生の
皆さんへ

医学部保健学科
理学療法科学専攻4年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して2か月ほど経ちましたが、大学生活には慣れてきたでしょうか。

私がこれまでの大学生活を通して、大切だと感じたことは「何事にも興味を持ってチャレンジしてみること」です。大学では、自分で決めた自由な生活を送ることが出来ます。どこに時間を割くかを自分で決めることが出来るため、勉強だけでなく、部活やサークル、アルバイトなど、少しでも興味を持ったことには何でもチャレンジしてみたいと思っています。部活やサークル、アルバイトな

どを通して、異なる学校や学部、専攻の方と関わる機会を増やすことで、様々な価値観に触れることが出来るため、視野の広がりにつながると思います。その経験はきっと、皆さんの将来に役立つものになると思います。

大学生活での4年間、または6年間は、楽しいことも大変なこともたくさんあると思いますが、長いようであっという間に過ぎ去ります。皆さんにとって、有意義で楽しい大学生活を送れることを願っております。

清野
みらい



大学生になって

理工学部
物質創成化学科1年

入学して早1ヶ月が経ちました。心配だった一人暮らしにも慣れて、新しい友達もできて充実した大学生活を送っています。ここまでの1ヶ月間は一日一日がとても濃く、あっという間でした。

大学では今までの学生生活とは違い、自分で自由に使える時間が大幅に増え、空きコマの時間を使って課題をやったり家事をしたり、友達と遊んだり、自転車校に通ったりするなど今までとはまるで違う生活を送っています。

しかし自由が多い分、今まで以上に自己管理を徹底する必要があるため、優先順位をしっかりと考え無駄のない生活を

送っていききたいと考えています。

そして、この1ヶ月間で改めて実感したことがあります。それはこの大学に入学でき、充実した大学生活を送ることができているのは、家族や友人、先生方など沢山の方達のおかげだということです。本当に感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、弘前大学で頑張っていきたいです。

私はまだ将来やってみたい職業が明確に決まっていません。なのでこれからは目標を見つけ、弘前大学に入学してよかったと思えるように色々なことに挑戦していききたいです。

浅田
眺和



弘前大学の
学生になって

理工学部
地球環境防災学科1年

弘前大学に入学し、約1ヶ月が経ちました。弘前での新しい生活にも徐々に慣れつつあり、サークルや部活などを通して新しい友達や先輩方に出会えたおかげで、想像していたよりも充実した生活を送れています。

私ははじめ、大学での勉強について行けるのかとても不安でした。しかし、大学の授業は高校とは違い、より実践的で学んだ知識が直に生活に生かされている実感があります。そのため毎回の授業がとても楽しみのなっています。また、特に数学などで自分に足りない部分が明確になってきたので日頃の勉強でしっかり

と補っていききたいと思います。

私は大学での4年間を有意義に使い、「大学生ならではの挑戦」をいろいろとしていきたいと考えています。つい先日、弘前から青森市まで往復80kmを自転車で走ってきました。大学生になり、高校生のときと比べて自分の行動範囲や使える時間が大幅に増えました。今までできなかったアルバイトや長距離の旅行などいろいろな経験を積むことで人としても成長していきたいと思います。

弘前大学での貴重な4年間、30年後あたりにふと「充実した4年間だった」と思いかえせるように頑張っていきます。

伊東
春花



弘前大学に
入学して

理工学部
電子情報工学科1年

弘前大学に入学してから約1ヶ月が経ちました。手続きが沢山あったりキャンパス内で迷子になりかけたりと大変でしたがなんとか今の生活に慣れてきました。

入学前は友達ができるか、講義についていけるかという不安もありましたが、同じ学科の友達もでき、講義では必要な専門知識を楽しく学んでいます。

更に大学ではあらゆる面で高校よりも自由度が増えます。早速私は入学前に髪を染めました。現在は3つのサークルに入り、今度バイトの面接を受ける予定です。サークルは最初は緊張していましたが、先輩方が優しいため、楽しく活動で

きています。とはいえ学業第一であることを忘れてはいけません。課題や自主学習もあるため、時間を調整して、できる範囲で大学生だからこそやれることをしたいと思います。

私はまだ将来の夢や目標が明確に定まっていません。今まではただ学校から出された課題を解いてテストでいい点数をとるために漠然と頑張ってきました。しかし、大学に入学してからは自分で将来に関係する授業や興味のある授業を選ぶ必要があります。これからは少しでも興味・関心を持ったものに意欲的に取り組み、自分のやりたいことを見つけたいと思います。



宮森 琴子

3 年先に経験した
先輩から皆さんへ

理工学部
数物科学科 4 年

今 回新入生の皆さんにメッセージを送る機会をいただいたことに感謝します。

今の私が、3 年前の私に何と声を掛けるかを考えてみました。「焦らなくて大丈夫」です。

3 年前の私は新生活に慣れる前に、新しいことを始めようと色々なことに手を出していました。しかし、講義を受けるだけで疲れてしまい、サークルの入部をやめたり、新入生向けのイベントを途中でキャンセルしたり、自分のキャパシティを把握できず中途半端に終わってしまいました。

結局サークルや学生団体などに所属したのは、2 年生になってからでした。学校生活に慣れた後だったので、サークル活動等

をスムーズに始めることができました。

ですので、やりたいことが見つかるまで新しいことを始めず待つことも選択肢の一つです。

やってみたいことが分からないなら、振り返る時間を作ることをオススメします。私は就職活動をしている中で人生を振り返ることがありました。その振り返りにより、毎日を漠然と過ごしていた時よりも正確に自分自身のことが理解できました。今はやりたいことが明確になってきてとてもワクワクしています。

新入生の皆さん、焦らずにあなたのペースで大学生活を楽しんでください。そして、たまに日々の出来事を振り返る時間を作って、あなたらしさを見つめ直してはいかがでしょうか。



丸山 隼人

新入生の
皆さんへ

理工学部
機械科学科 4 年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな環境には慣れてきたでしょうか？以下に僕が入学してから感じた点を挙げていきます。

まず、大学では履修科目の選択や日々の食事など、より自由に行動できる一方で、車の運転など責任も重くなります。そのため、社会人になる前の段階にいるという自覚を持ち、気をつけて生活してください。

次に、積極的な行動でより豊かな生活になる点です。大学生活は学業もちろん大切ですが、それだけでは正直味気ないです。なので、バイトや部活動など多くの関わりを持つことで、その中でしか得られないものも得ることができ、一段

と充実した生活を送れます。これらの経験は将来へのあらゆる可能性を与えてくれるので、興味のあるものから一步を踏み出してみてもいいのではないでしょうか。

最後に、何か思い悩むことは相談すると良い点です。学業を始め、自分だけでは分からないことも他人がいると新たに気付くことが多々あります。友人や先生など相手は誰でも良いので一人で抱え込まず、悩みを解消できる状態にすることも大事です。

これからの大学生活に期待や不安などを抱えていると思いますが、様々な経験を通じて自分らしく成長していけるよう願っております。



佐々木 理名

有意義な
大学生活を！

理工学部
自然エネルギー学科 4 年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高校までとは違う大学の授業のスタイルや新しい生活には慣れてきたでしょうか？私は入学当初、「4 年間は長そうだな」と思っていたのですが、いざ振り返ってみると本当にあっという間に感じています。

大学生活では、これまでできなかったアルバイトや旅行、留学など自分の気持ち次第で挑戦することができる時間があります。その経験の中で、自分の得意不得意に気づいたり、好きなことを見つけたり、一生の友人に出会ったりすることができると思います。私は、塾講師のアルバイトを通して人と直接関わることが

楽しいと感じ、就職活動の際は「お客様と直接関われる仕事」を軸に進めていました。

また、大学の授業を通して学ぶこともあります。専門の知識はもちろんのこと、計画性や理論的思考、多角的思考などを実験やレポート作成を通して学ぶことができます。

大学は自由であるからこそ、何をするかは皆さん自身にかかっていますし、それによって将来が変わってきます。大学 4 年間で有意義なものになるように、後悔しない大学生活を送れることを祈っています。

橋本 衛

弘前大学に
入学して農学生命科学部
食料資源学科 1 年

地元である横浜から遠く離れ弘前で
の一人暮らしが始まってから約
1ヶ月、段々と新しい環境に慣れてしま
した。自分が入学前に描いていた憧れの
大学生活を謳歌できています。

私が弘前大学に来て最初に感じたのは、
今までと比にならないくらい自由な環境
であると言う点です。中学生の頃から「自
立し、一人で生きる」ことに憧れていた
ので、家事や身の回りのことを全部自分
で決断しながら生活できるのはすごく幸
せに思います。今日の晩御飯に何を作る
うかとか考えるのが凄く楽しいです。一
方で、当たり前のようにご飯を作り、生
活を支え、自分の進路の決断に真剣に向

合ってくれた親への恩恵も感じています。

次に、私が大学生活を送る上での目
標を二つ書こうと思います。一つ目は、
色々な人と上手くコミュニケーションを
取り、「必要で信頼される人」になること
です。これは広い社会に出ていく上で重
要なことだと思います。二つ目は「自分
を見つける」ことです。自分がどんな性
格をしていてどんな人間なのかを知る事
で、人との関わり方や、将来の職選に
役立つと思います。

これから大学生活を送る上で様々なこ
とにチャレンジして経験を積み、能動的
に行動して交友関係を広げること、目
標を達成できる様に頑張ります。

廣田 禮士

弘前大学の
新たな一員と
なって農学生命科学部
分子生命科学科 1 年

弘前大学に入学して1ヶ月が経ち、
あっという間だなあと時の速さを
実感しています。

大学生活が始まり自分で履修を組んで
時間割を作って、その時間に合わせて登
校するという自由なスタイルや大学内
での生活にはだいぶ慣れてきました。しか
し、朝は早く起きることができず時間
にルーズだったり、服を選ぶのに時間か
かったりまだまだ未熟なところはあり
ますが同じ寮や学科、サークルの仲間
に囲まれて充実した大学生ライフを楽し
んでいます。

授業が始まって日は浅いですが、大学
では専門的な内容の授業が多く、新しい
発見をして自分の知識の幅の広がりを実
感しています。また、様々なジャンルの

基礎知識を取り入れて自分のやりたいこ
とに落とし込めるところが大学の強みだ
と思います。昔から昆虫（特にトンボ）
が好きで、本学には興味のある研究室が
あるので目標にして頑張っていこうと思
います。

僕は、ダンスを小学校1年生から続け
ているのですが、ここ弘前はダンスシー
ンが活発でダンスがきっかけで仲良くな
れた同級生や先輩も多いです。最近は特
にダンス熱がやばく生活リズムが偏りが
ちですが、学問と両立して努力を怠らず
結果を出せるよう頑張ります。

大学生活は時間がたくさんあるので、
たくさんの事にチャレンジして経験を積
んで自分を高められるような生活を送り
たいです。

下川原 侑花



大学生となって

農学生命科学部
国際園芸農学科 1 年

弘前大学に入学してから1か月が経
ちました。取り巻く環境が大きく
変化したので何事も新鮮で時間の流れを
早く感じます。入学前は一人暮らしに対
する不安がありましたが今のところは
支障なく過ごせています。最近では、レ
ポート等の課題に追われ慌ただしい時も
ありますが、大学生活を楽しんでいます。

入学後に一番感じたことは自分が自
由であることです。一人暮らしなので起
床・就寝や食事を好きな時間に行えます。
講義の履修も選択でき、空きコマの曜日
も作ることができます。しかしながら、
自由であるがゆえに自分で目的を決め、
動き出さなければ何もできないこともわ

かりました。私は新しいことにチャレン
ジすることが苦手です。そこで、「在学中
に何か新しいことに挑戦したい!」と考
えました。実はこの原稿を書くことも挑
戦の一つです。大学には部活やサークル、
アルバイトなど様々な機会がたくさんあ
るので勉学と両立させながら高校生まで
ではできなかったことに挑戦して自分を
レベルアップさせたいと思います。

小岡 海人



せっかくの
青森での生活を
充実させよう！

農学生命科学部
生物学科3年

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ学校に慣れてきたところでしょうか。初めての授業はどうでしたか？親元を離れての生活には慣れてきましたか？

さて、私からせっかく青森の弘前大学に入学した皆さんに向けて、大学生活・青森での生活の楽しみ方を伝えられたらいいと思います。

まず、青森県では全国的に有名な祭りや景観がいくつもあり、それは1年を通して私たちを楽しませてくれます。弘前公園の桜まつりにはいきましたか？弘前公園の桜は日本一と言われるほど、すごく綺麗で観光客もたくさん訪れます。夏

は、ねぶた祭りです。特におすすめは、青森ねぶたと五所川原立佞武多です。初めて見たときはもちろん、何度見ても感動させてくれます。私が青森で生活するようになってから、ねぶた祭が一番印象的でした。ねぶた祭は絶対いきましょう。秋になると、紅葉がとにかく綺麗で十和田湖や城ヶ倉大橋の紅葉は見物です。このように、青森は一年中イベントがあります。

最後に、勉強や研究活動はもちろん全力で取り組み、これらのイベントを毎年友達と楽しみ、4年間を充実させましょう。その経験は必ず、人生の財産になりますよね。

駒木 英剛



心に太陽を
持て！

農学生命科学部
地域環境工学科3年

皆 さんこんにちは！駒木英剛と申します。

私から後輩に伝えたいことは数多くありますが、限られた文章の中で応えと、主に「2つ」あります。1つめは「人と比べすぎない」です。皆さんは弘大で多くの友人と出会う事でしょう。周りの人達の動きを意識する事は勿論大切。

だけど、勉強、サークル、アルバイト等様々な事を経験する中で、人と比べすぎると、どうしても緊張、萎縮してしまい最高のパフォーマンスは出来なくなると思います。いい意味で、「自分は自分。人は人。」なのです。

2つめは「挑戦、情熱」です。私は1年生の時、「相撲愛好会」を立ち上げまし

た。当時は独りぼっちでした。しかし今現在、部員も揃い「相撲部」へ昇格しました。頑張っていると誰かが絶対見てくれます。私は主将として、相撲部に入部を決めてくれた部員やマネージャーに対してとても感謝しています。

皆さんは挑戦することを恐れていませんか？自分自身にブレーキをかけていませんか？

「大学」とは「大きく学ぶ」と書きます。チャレンジすることは恥ずかしくありません。

課題にぶつかっても必ず周りの方が助けてくれます。だから挑戦を恐れなくていい。皆さんの青春の1ページが色鮮やかなものになりますように。

中島 啓太



張り詰めすぎ
ない生活を

農学生命科学部
食料資源学科4年

新 入生のみなさん、はじめまして。新たな環境での生活が始まり、これからの大学生活に対して期待を募る一方で、不安に思うこともあるのではないのでしょうか。

皆さんは充実した生活を送っているのでしょうか。学業は勿論、サークル活動、アルバイト、趣味等、自身のやりたいことを見つけ、毎日に充実感を感じている人も多いと思います。一方で、自分のやりたいことがまだ見つからないという人もいます。特に目標も無く毎日を過ごしていると、このままで良いのかと不安を感じることもあるかと思いますが、勿論生活の充実感があることは素晴らしいことですが、そうでないことが悪いというわけではありません。この先、気分

が落ち込み、やる気を無くすこともあると思います。そんな時にはどうか自分を追い込まず、気楽に生きてみてください。私も特にやりたいことを見つけないままかなりの時間を浪費しましたが、生活していく中で徐々に自分のやりたいことがわかって来ました。今自身の生活を振り返っても、なんとなく過ごしていた日々も無駄では無いと感じています。将来について不安な人もいるかと思いますが、大学生活はまだまだ長いのであまり気負わずに生活してください。意外となんとかなるものです。

これから色々なことがあると思いますが、張り詰めすぎず、自分を大事に頑張ってください。

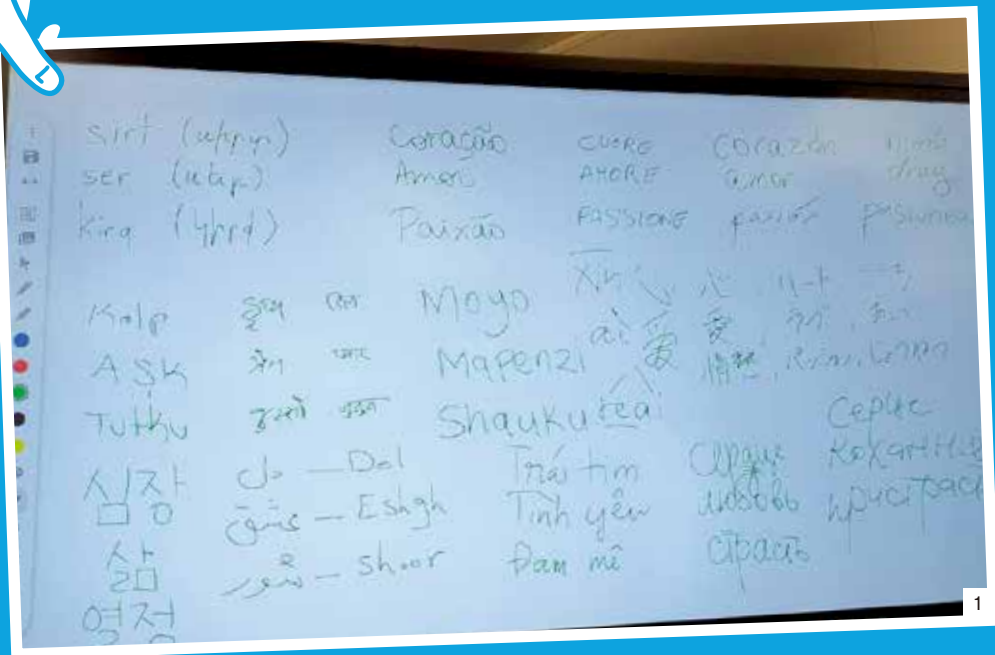


海外だより

海外留学で見たこと感じたこと

初めての海外 in ドイツ

人文社会科学部 社会経営課程 4年 小田嶋 星奈



初めまして。私は現在、交換留学生としてドイツのトリアー大学に留学しています。今回は、日本から約15時間かけてやってきた場所での生活について紹介したいと思います。

トリアー大学での生活

ここでは、大学での授業やアクティビティについて紹介します。

まず、授業についてです。私は現在、ドイツ語を中心に履修しています。ドイツ語コースはレベルが細かく分かれており、種類もたくさんあります。文



法、リスニング、スピーキングなどの基礎に加えて、プレゼンテーションの授業や映画を見ながらの授業もあります。自分の好きな分野でドイツ語を勉強することができてとても楽しいです。そして、授業には新しい友との出会いが多くあります。私のコースは25人ほどですが、様々な国籍の人がいます。ヨーロッパからはもちろん、中国・韓国・ベトナムなどのアジア圏、アフリカからきている学生もいます。年齢も20歳から30歳など幅広く、日本人は比較的若めな印象です。日本での英語の授業とは違い、文法コースでもペアワークが多いので友達ができやすいです。

次に、アクティビティについてです。トリアー大学には日本語学科が設置されており、日本語や日本の文化を学んでいる学生が多くいます。彼らが月に1回程イベントを開催してくれるため、日本語学科の友達が増えます。内容は、Stammtischという定期的な飲み会やハイキング、BBQなどさまざまです。驚くべきことは、日本語学科の学生の日本語レベルがとても高いことです。上級生は日本への留学経験がある人がほとんどなので、何かわからないことがあれば日本語で質問することもできます。一番魅力的なのは、Tandemでの語学学習ができることです。Tandemとは、パートナーと母国

語を教え合うことです。私も週1回4時間ほどパートナーと学習しています。他の日本人の学生もTandemを組んでおり、日本人がドイツ語を勉強するにはとても恵まれている環境だと思います。

ドイツの好きなおとこ

みなさんはドイツに対してどんなイメージを持っていますか？私が7ヶ月間で見つけたドイツの魅力を紹介します。

まずは、なんといってもアルコールです！ドイツのスーパーには多くの種類のビールが格安で販売されています。また、地域によってオリジナルのビールがあります。一番有名なのはミュンヘンのビールだと思いますが、ケルンなど他の地域のビールもおいしいです。ドイツにはRadlerというビールとレモネードを合わせたアルコールがあります。これも絶品なのでぜひ試してみてください。





4

イベント面では、やはりクリスマスマーケットが最有力です。11月下旬から12月下旬にかけて、ドイツ国内ではいくつものクリスマスマーケットが開催されています。イルミネーションがきれいなのはもちろんですが、個人的にはGlühweinが魅力的です。これはスパ



5

イスのきいたホットワインのことです。会場によって味が違うので、約15都市ドイツ中をまわって飲み

比べをしていました。有名なソーセージもたくさん堪能できますよ。

そして最後に、生活面です。これは、治安の良さともれます。私はヨーロッパの約15の国に旅行しましたが、ドイツは中でもかなり治安が



7

良いと思います。日本の治安レベルは世界でも有名ですが、ドイツも同レベルに安全だと思います。海外初体験の私からすると、この治安の良さは本当に安心しました。

自分自身の変化

留学にきて、自分自身もかなり変わったと思うのでいくつか紹介したいと思います。

一つ目に、チャレンジ精神が高くなったことです。日本にいたときでも、新しいことに飛び込むハードルは低かったのですが、留学にきてからはそれがもっと低くなったと思います。例えば、始めの頃は安全面と不安で友達と一緒に旅行していましたが、最近是一人で他のヨーロッパ諸国を旅行するようになりました。また、韓国の友達と仲良くなったことをきっかけに、最近韓国語の勉強を始めました。新しいことを始めるときに不安はつきものですが、その不安はあまり現実にならないと感じて、挑戦へのネガティブな気持ちが少なくなりました。

二つ目に、語学に対する不安です。留学前の私は、英語が堪能なわけでもなく、ドイツ語も留学が決まってから少し勉強した程度でした。始めは、英語・ドイツ語どちらにせよ会話への不安が大きく、恐



8

怖もありました。しかし、私が思っているほど他の人は私の語学力を気にしていないことに気付きました。ドイツ語に慣れ、その反動で英語がほとんど話せなくなっていたときも、私の英語を理解してくれようとゆっくり話を聞いてくれ

たり、時には翻訳機能を使って会話してくれたりする人もいました。この経験から、会話しようとする気持ちさえあればなんとかなると思うようになりました。今もドイツ語と英語の間でかなり混乱していますが、“私は学習者なんだから、母国語のあなたががんばって理解してよ”という軽い気持ちで会話しています。日本では完璧を求めがちでしたが、そもその会話するという目的を忘れてはいけないと改めて感じました。



10

おわりに

留学での一番印象的なことは、人との出会いがたくさんあることです。フレンドリーに話しかけてくれる人が多いので、思わぬ所に出会いが広がっています。実際、私が仲良くしている友達はバス停でたまたま同じバスを待っていた人です。そして、新しい自分自身との出会いや新しい好きな場所ができます。世界は広いなと実感できます。みなさんも海外で新しい人と出会い、新しい自分を探してみましょう。



STUDY ABROAD

こんなことやってます！

CLOSE-UP

研究室紹介



これからの医学教育を
デザインする

医学研究科
附属地域基盤型医療人材育成センター
医学教育学講座

特任教授 鬼島 宏



プレ・クリニカルクラークシップ(医学科4年次)
基本的臨床手技・心電図実習

1. 研究室の概要

医学教育学講座(研究室)は、学術的知見と地域文脈に基づいた教育プログラムの開発により持続的な地域医療教育を実践し、その研究成果を国内外の研究者と議論することで国際的な医学教育研究に貢献します。そして、このプロセスを循環させることで次世代の地域医療と医療者教育のリーダーを育成することが我々のビジョンとしています。このため、講座のミッションには、1) 地域に立脚した教育プログラム開発、2) 教育質改善による社会貢献、3) 未来の医療者教育者育成、4) 協働的学術支援活動、5) 学術的教育研究の5点を掲げています。

2. 基盤型医療人材育成センター

2022年度に、弘前大学は文部科学省による大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に

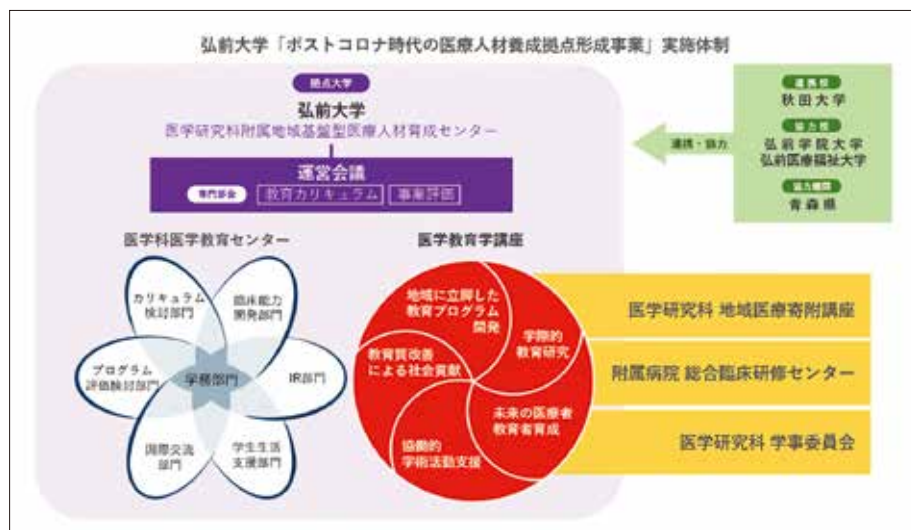
選定されました。この拠点形成事業は、全国でわずか11拠点のみが選定されたもので、弘前大学として大変に意義あることとなりました。選定された弘前大学の拠点形成事業は「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」と題し、弘前大学が拠点大学となり、連携大学として秋田大学、協力大学として弘前学院大学・弘前医療福祉大学、協力機関として青森県が加わり密に連携・協力しながら、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

2022年10月1日に、この事業を実践していく組織として、医学研究科に附属地域基盤型医療人材育成センターが設置されました(図1)。このセンターは、大学医学部における養成課程(学部教育)の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課

題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することで、選定された事業の目的達成を推進しています。本センターは、医学科医学教育センター及び附属病院総合臨床研修センター、医学部保健学科と協同して地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの運営・管理を行い、さらには青



図1：附属地域基盤型医療人材育成センター・運営会議(2022年11月22日・アートホテル弘前シティにて開催)



新任教員紹介

個性豊かな19名の教員が新たに着任いたしました



人文社会科学部

国際経済学研究室



潘 鋭

4月より着任しました潘^{ばん 鋭}と申します。専門は国際経済学であり、最低賃金や環境政策など幅広い経済問題について理論分析を行っています。弘前での生活は初めてですが、アニメ「ふらいんぐういっち」の舞台としても知られる弘前には以前から親しみを感じていました。学生の皆さんと共に学び、成長しながら、立派な研究者と大学教員になれるよう精進いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部

英語教育講座



齋藤 章吾

英語教育講座の齋藤^{さいとうしょうご}と申します。専門は英語学で、特に英語の文法や発音の仕組みに関心を持っております。昨年度までお隣の弘前学院大学に勤めており弘前での生活は5年目になるのですが、コロナの影響で外に出ることが少なかったため弘前市や弘前大学についてまだまだ知らないことばかりです。色々と学びながら精一杯教育、研究、業務に努めますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

教育学部

教育保健講座



清水 真由美

今年度から、教育保健講座にて学校看護学を担当します。本学の教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業し、教育学研究科に進学しました。看護師として病院に勤務し、その後、災害後の復興に関する事業に携わってきました。卒業した教育学部に勤務できることを、とても嬉しく思っております。これから、研究と学生の育成に務めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大学院教育学研究科

教職実践専攻



山田 彰利

3月に青森市立佃小学校校長を役職定年となり、教職大学院に採用されました山田^{やま だ 彰とし}と申します。高校卒業までを過ごした故郷、弘前市での勤務に懐かしい思いです。学校安全や危機管理に関する授業を担当します。先輩方からの御指導・御助言をいただきながら、これまでの現場での経験を生の声として学生に伝えていければと考えています。本県教育の発展・充実のため、微力ではありますが、精一杯努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学院教育学研究科

教職実践専攻



川端 良介

今年度から教職大学院に赴任した川端良介です。現在、青森県は「短命県返上」というスローガンを掲げ、健康寿命の延伸を目指して健康教育に力を入れています。私は健康教育に携わることで、青森県に住む児童・生徒が将来においてもウェルビーイングな状態になり、結果として健康寿命の延伸に繋がりたいと考えています。これから、教職大学院の院生とともに「健康教育」についてともに考える機会を非常に楽しみにしております。

大学院保健学研究科

心理支援科学科



中里 和弘

令和6年4月1日付で着任しました中里和弘と申します。専門は医療心理学・臨床死生学で、終末期の患者と家族間のコミュニケーション、大切な人を亡くした方へのケアについて研究をしています。学生の皆さんと一緒に生や死に関するテーマを考える機会を持つ中で、「人が他者と共に生きることの意味」を見つめていけたらと思います。そして青森県の公認心理師の育成に貢献できるように努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大学院理工学研究科

電子情報工学科



朝田 晴美

令和6年4月1日付で理工学研究科助教に着任しました朝田と申します。出身は山口ですが、今年の3月までは三鷹に住んでおり、縁あってかこの度弘前までやって参りました。専門はメタサーフェスという人工材料による電磁波の制御で、メタサーフェスの設計法、作製法、実験評価法などを研究してきました。新しい環境でこれからさらに知見を広げつつ、着実に研究を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大学院理工学研究科

電子情報工学科



楊 逸飛

2024年4月1日付けで理工学研究科電子情報工学科に着任しました楊逸飛と申します。最適化アルゴリズムとニューロンモデルを専門としています。現在、新エネルギーに関する最適化問題の研究を積極的に進めています。学生とともに最先端のAI技術を探索していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

大学院理工学研究科

機械科学科



山崎 拓也

理工学研究科に着任しました、山崎拓也です。よろしくお願いいたします。愛知県の豊橋市から来ました。弘前とは文化や気候などが全く違うので、驚いています。

専門は火災科学や燃焼工学で、自然由来の素材やバイオマスなどがどのように燃えるか、人や環境に優しい方法で燃えにくくするにはどうするかを研究しています。青森県は自然資源が豊富なので、火災のような災害の防止、またはそれらを効率的に利活用する技術に貢献できるような研究を行いたいと思います。

大学院理工学研究科

機械科学科



大竹 真央

2024年4月より、機械科学コースに着任しました大竹真央と申します。これまでは単一分子や単一細胞を遠心力で引っ張ることで、結合力を測定する研究を行ってきました。弘前大学ではこれらの知見を基に病気の診断や再生医療への応用を目指して研究を進めていきます。

大学教員1年目で、未熟な部分も多くありますが、研究や教育を通じて弘前大学や地域の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

大学院理工学研究科

自然エネルギー学科



西山 尚登

2024年4月1日付で理工学部自然エネルギー学科に助教として着任いたしました。私は、太陽光エネルギーの有効利用に向けた可視光応答型金属酸化物光触媒について研究しております。私は福岡県出身で、山口大学で学位を取得後、大阪府、神奈川県、東京都、富山県の大学等で研究活動を行ってきました。弘前大学の学生の皆さまと共に学び、雪やリンゴと触れ合い、大学や地域の発展に貢献したいと思っています。よろしくお願いいたします。

農学生命科学部

生物学科



森井 悠太

2024年4月より、進化生態学研究室のPI（准教授）として着任しました。陸上無脊椎動物を主な対象に、フィールド調査や飼育実験、行動観察や形態測定、DNAの解析など多角的な手法を用いて、進化・生態に関わる課題を解き明かす研究を行っています。今後は学生の皆さんの関心に応じて、植物や脊椎動物、海洋生物なども対象とし、ますます多様な研究を展開していきたいと思っていますので、興味のある方は是非遊びに来てください。

農学生命科学部

地域環境工学科



岸岡 智也

4月より農学生命科学部 地域環境工学科に助教として着任しました。専門は農村計画学で、農村地域の持続可能性や生物多様性・環境保全との両立などに関する研究をしています。青森県は地域ごとにバラエティに富んでいる場所なので、新たな調査フィールドを開拓するのを今から楽しみにしています。新たな環境で学生の皆さんとも一緒に楽しく学び、研究を進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医学部附属病院

血液浄化療法部



今井 篤

2024年4月1日付で弘前大学医学部附属病院血液浄化療法部に着任いたしました今井 篤と申します。血液浄化療法部は附属病院に治療目的で入院された方の維持透析や種々の血液浄化療法を行っております。前任の鷹揚郷腎研究所弘前病院での経験を生かしながら、弘前大学および附属病院での臨床、研究、教育に携わっていきたく考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

教育推進機構



増本 広和

2024年4月に、教育推進機構に助教として着任いたしました。出身は高知県で、学生時代を大阪府や北海道で過ごし、このたび弘前市に来ました。授業は、教養教育科目のデータサイエンス科目をおもに担当しています。研究分野は地質学・粘土鉱物学です。断層に含まれる粘土鉱物を分析することで、地震に関する知見を得ることに興味を持っています。弘前大学では、青森県でのフィールド調査などにも力を入れたいと考えています。

研究・イノベーション推進機構



白井 隆之

2024年4月に着任しました白井^{しろ}隆之^{たかゆき}です。URAとして、研究成果の権利化、社会実装、そこに至る外部資金獲得をはじめ、様々な形で研究活動のサポートをいたします。弘前からは遠い東京事務所に常駐ですが、いつでも気持ちだけは弘前に瞬間移動できるように心掛けております。また年に何度かはリアルで出張して、皆様にお目にかかり、弘前を堪能したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

研究・イノベーション推進機構



清水 武史

2024年4月より着任した清水^{しみずたけ}武史^しです。これまで、本学医学研究科等の研究機関で研究活動に従事してきました。現在は、University Research Administrator (URA) として大学の産学官連携や外部資金獲得、大学発スタートアップの支援などを担当しています。研究者としての経験を活かしながら、こうした研究支援活動を通じて本学の研究力向上に貢献する所存です。

地域創生本部

地域創生推進室



館 栄

3月末で青森県庁を退職し、4月から実務家教員として勤務している館^{たて}栄^{さかえ}と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

地域創生本部の役割のひとつに、「地域課題の発見と解決支援」があります。まずは、日々の暮らしの中での違和感（モヤモヤ感＝地域課題）を、みなさんと共有するところからはじめたいと思います。





TOPICS



「令和6年度 部活・サークル 大勧誘会」を実施しました

毎年4月に、各部活・サークルの勧誘を一斉におこない、新入生に、より多くの部活・サークルに興味や関心を持ってもらうため、学生団体「新歓本部実行委員会」が中心となり、大勧誘会を開催しています。

今年度は、4月13日(土)・14日(日)の2日間にわたり開催されました。



令和2年度から4年度まではオンライン開催、令和5年度は規模を縮小しての対面開催とここ数年はコロナ禍の制限の中での開催でしたが、今年度は晴れて制限なしでの開催となりました。

当日は50周年記念会館でのステージ発表がおこなわれ、29団体が様々なパフォーマンスを披露しました。また、総合教育棟内の講義室に79団体がブースを設け、作品の展示や体験会などを開き、新入生に部活やサークルの雰囲気を知ってもらう活動をおこないました。

両日で延べ1,200人の新入生が訪れ、活気あふれる2日間となりました。



交付式後の記念撮影

令和6年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を、令和6年6月6日(木)に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、福田学長から今年度申請があった4団体の各出席者に活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について紹介がありました。

福田学長からは、「採択おめでとうございます。長年継続されてきた団体や、日頃から多方面にわ

たり注目される活動を行っている団体など、いずれも素晴らしい活動です。ぜひ活動を継続、発展させていただきたいと思います。今後の活動に期待しています。」と学生の活動を後押しする言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、新入生勧誘状況や活動状況の説明があり、これまでの活動における様々なエピソードや、ボランティアの経験を通じて得たものや成長できた点などを聞くことができました。

令和6年度 ボランティア活動助成団体

児童文化研究部KIDS'

申請代表者：佐々木 翔稀(理工学部)

僻地教育研究会

申請代表者：高見 りつ花(教育学部)
交付式出席者：小松 優芽(人文社会科学部)

環境サークルわどわ

申請代表者：丸山 翔子(理工学部)

one step to OBGYN プロジェクト

申請代表者：中山 桃花(医学部保健学科)
交付式出席者：丸屋 結愛(医学部医学科)

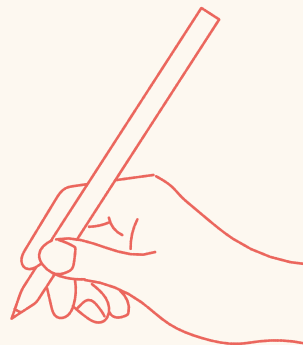


編集後記

本号では、新入生の声および在校生の声を特集しています。この時期の定番の企画ではありますが、寄せられた原稿を読んでいると、「大学っていいなあ」と思いました。有益な情報を詰め込んだ原稿、他者との差別化を図って斜に構えた原稿、カジュアルな文体であるものの教養が垣間見える原稿、どの原稿も自由さや楽しさが感じられます。学生のみなさんにとっては、小・中・高と似たようなお題目で作文してきた集大成でもありますね。一方で、大学においては学年が進むにつれ、指導教員から論理的な文章の書き方を叩き込まれると思います。時と場合にに応じて、適切な作文ができるようになるのが格好いですね。

さて、新入生にとっては、新

しいことが続いてストレスを溜め込みやすい時期です。また、在校生の中には就職や進学など今後のキャリアを考えて憂鬱な気持ちになっている人がいるかもしれません。しかし、大学は自由な場所です。疲れたら少し休んでからまた歩き出せばよいのです。困った時は、クラスメートや教員に相談してみてください。大学教員のキャリアは、エリート街道とは対局で順風満帆な人生を歩めることはあまりありません。今抱えている辛さを伝えてくれれば、多くの教員が共感して相談に乗ってくれるでしょう。筆者自身も、無職で特にやることのない時期がありました。人生長いのですから、色々経験した方が得です。研究も私生活も楽しんでいきましょう。



農学生命科学部 菅原 亮平

5年ぶり！対面開催！！



学生の学生による学生のための新学期活動

弘前大学生協 学生委員会

学生委員会は弘前大学生協理事会の下部組織となります。「理事会」で決定した方針を具体化するとともに組合員の声をもとにした「よりよい大学生活」のための企画を行います。



Welcome Party

- ・友だちを作り、大学生活へのモチベーションを上げてもらう
- ・先輩とのつながりやつながるきっかけを提供し、新入生の質問に答えることで不安を解消する。



みんなDEごはん

食堂の使い方やミール、自炊についてなど食に関する様々な知識を提供するとともに、一緒に学食を食べて友だちを作ってもらう。



Start Up Seminar

- ・大学でやりたいことを見つける
- ・同期や先輩とのつながりをつくる



学生委員会の活動内容は「大学生の“健康と安全”についての呼びかけや、予防提案」「環境活動」や「(生協の) お店作り」、「食」、「総代サポート」「受験生(高校生)サポート」など多岐にわたります。その中でも今回紹介したこの新学期企画は大学生活の第一歩となるこの時期に、これからの大学生活をどのように過ごしていくかを考え、いいイメージを持って過ごしてもらえるために企画しているものです。

今年は全企画5年ぶりの対面開催。当時の様子を知るメンバーがいない中、企画作りの段階から運営まで手探りの状態で進めることとなりました。新入生の反応や当日の対応など不安なこともありましたが、どの企画も楽しんでいる様子を見るのができ嬉しく思います。新入生のみなさんのこれからは、より楽しく充実したものになるようこれからも企画の開催をしていきます。



弘前大学



学園だより

vol.210 / 2024年6月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：平野 潔（教育委員会）

委員：近藤 史（人文社会科学部）

吉澤 忠司（医学研究科）

丹波 澄雄（理工学研究科）

成田 和香（学生課）

帆苺 基生（教育学部）

伊藤 巧一（保健学研究科）

管原 亮平（農学生命科学部）

白石 興介（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp